

環境

交通と環境に関する未来

- 渋滞解消により、排気ガスが削減されるまち
- 自動車の量が半分になっている
- 中心市街地は公共交通のみに
- 公共交通利用が増え、CO₂が削減される
- 徒歩と自転車で回れるまち
- 居住地の選択により

ごみに関する未来

- 歩きたばこがないまち
- ゴミ箱が面白いロボットになっている

エネルギーに関する未来

- 脱炭素型の住宅に住めるまち
- ZEB、ZEHが理解されたまち
- レンタルサイクルシステムが導入される
- エネルギー自給のモデルが確立されている
- 街中で再生可能エネルギーによる発電が行われている
- 景観が守られた発電設備が導入される

固有の樹木を住民で植樹している

獣害に対応できるまち

森の整備に従事する人が増加している

IoTにより森林環境を把握している

森林に関する未来

森林資源が地域経済の原動力になっている

荒廃地が減少している

その他に関する未来

- 星空がきれいなまち
- 明るい里山がある
- 果物が採れるまち
- 豊かな水源が維持されている
- 土地の特徴を活かした環境が整備されている
- 人間が変わろう
- 環境がテーマとなったフェスが開かれている
- ダムが有効に使用されている
- 中山間地域と里山が整備されている

まちの環境に関する未来

- 雨水を有効活用し、都市緑化が進んでいる
- 駅前に自然を感じられるまち
- 公園を周遊できるまち
- 歩いて暮らせるエコで健康なまち

環境教育に関する未来

- 動物や虫や樹木と一緒に暮らせるまち
- 生物環境、自然環境が維持されたまち
- 市民の環境リテラシーが向上したまち
- 河川の働きについての知識が普及したまち
- 地球の環境変動について、住民が説明できる

環境分野で特に重要視された未来

星空がきれいなまち

明るい里山
がある

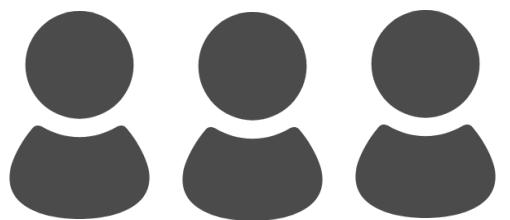
豊かな水源
が維持され
ている

果物が採れ
るまち

土地の特徴
を活かした
環境が整備
されている

- ・外からの長野のイメージを守る、維持することが長野の環境のPRになる。
- ・住環境の良さは外部（観光客等）からみた環境の良さにもつながる。
- ・里山と人が暮らすまちが接続しているまちであってほしい。

長野のイメージでもある
(自然豊かな環境)が維持

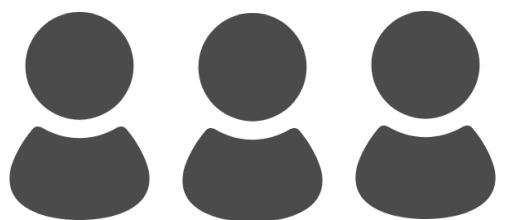


地球の環境
変動について、
住民が説明できる

人間がかわ
ろう

- ・自然が身近にあることが、環境について考えることにつながる。
- ・長野の環境イメージを子どもたちに伝えることは、未来の住環境の良さにもつながる。

環境のこと自分事に



避難所に関する未来

ペットも一緒に避難できるまち

防災・防犯に対する意識、地域コミュニティに関する未来

- 住民の防災・防犯に対する意識が高いまち
- 近所にだれが住んでいるかみんなが把握できている
- 地域が普段から若者との協同の場がある
- 消防団員になるメリットがあるまち
- 災害時にも助け合える関係性があるまち
- 中山間地域の高齢者が中心市街地に住みたくないまち
- 若者と高齢者が共生するまち
- 自治会ごとに連携協定が締結されたまち
- 災害時も地域が分離されない

その他に関する未来

- 自足30kmの自動運転でもせかせかしないまち
- 河川流域全体で雨量を管理できる
- 災害リスクにも対応できるまち
- 過去の教訓を忘れない
- 災害に強いネットワークが整備されている
- 災害が起きた時も子どもが学校に通うことができる

ハード面の対策に関する未来

- 安全な通学路環境が整ったまち
- 安全な避難場所へアクセスしやすいまち
- 土砂災害や水害に強いまち
- 住宅の災害対策が進んでいる
- まち中に電源スポットが設置されている
- 減災のためのグリーンインフラが進む
- 災害が起きても電気が止まらないまち
- グリーンインフラを推進する組織が増えている

防犯に関する未来

- 小さい子どもが一人でも歩けるまち
- 獣害対策も行き届いたまち
- 街頭や防犯カメラが充実したまち

防災・安全の情報に関する未来

- 避難のタイミングがわかるまち
- 素早い災害情報の伝達が可能となっている
- 情報共有のプラットフォームが充実している

交通安全に関する未来

- 高齢者が運転しなくて済むまち
- 高齢者が安心して免許返納できるまち
- 自転車、歩行者にやさしいまち
- 自転車が楽しく走れるまち

防災・安全分野で特に重要視された未来

災害時も地域が分離されない

災害に強いネットワークが整備されている

災害が起きたときも子どもが学校に通うことができる

過去の教訓を忘れない

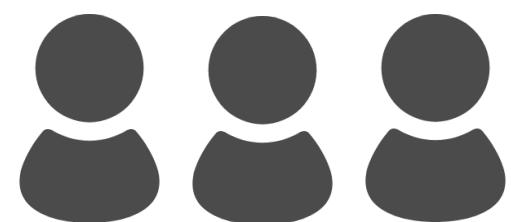
災害が起きたときも電気が止まらない

グリーンインフラを推進する組織が増えている

災害リスクにも対応できるまち

- ・災害が起きたときはインフラでだけでなく、人のつながりも大事である。
- ・災害に無関心な人が市内にいない“まち”になるといい。
- ・災害が起きたときも、市民生活のベースとなる電気もガスも水道といったインフラが止まらないことが、安全なまちになる（中心地も郊外も）。
- ・被災時も救急車両がアクセスできるまちが、安全・安心なまち。

災害に強いインフラと
地域のネットワークの構築



地区組織や地域活動 に関する未来

地区どうしの
交流が盛んなまち

地区の役員
になるメリット
があるまち

女性が住民
組織の長を
担えるまち

役員は順番
で全員が担
うまち

地域の役割
は自分たち
で自由に決
められる

「人任せ」か
ら「ちょっと
参加」のモ
デルが出来上
がっている

年齢、職業を
超えた住民
全員のまち
づくり会議が
開かれてい
る

地区的行事
(運動会等)
が盛り上がっ
ているまち

若い世代が
住民組織を
運営してい
るまち

地域活動に
好きな時に
参加できる
まち

子どもや若者と コミュニティに に関する未来

中山間地域
にも学生が
残っている

若者主催のイ
ベントがあ
るまち

中山間地域
と学生の交
流が盛んな
まち

学校の授業
で地域活動
に参加する
まち

拠点や環境に に関する未来

空き家を有
効活用した交
流の拠点が
ある

犬や猫が自
由に入る公
園が整備さ
れている

学校の教室
が地域の交
流の場として
開放されて
いる

若野茂が集
まる場所が
ある

観光客と住
民が集まる
拠点があ
るまち

地元の人
が自由に話
せる場所があ
る

その他に に関する未来

地区の役員
には、地域ポ
イントが付与
されるまち

コミュニティ
でのデジタル
ツールの活用
が進んでい
る

目的ごとに多
様なコミュニ
ティが生め
れるまち

スポーツやイ
ベントを通じ
てつながれ
るまち

地域のつながりに に関する未来

避難に支援
が必要な方
を共助でき
るまち

外から來た
人でも入りや
すいコミュニ
ティが形成

高齢者がボ
ランティアに
参加しやす
いまち

● コミュニティ分野で特に重要視された未来

「人任せ」から
「ちょっと参
加」のモデル
が出来上がっ
ている

地域活動に好
きな時に参加
できるまち

年齢、職業を
超えた住民全
員のまちづく
り会議が開か
れている

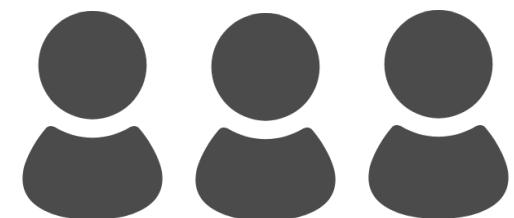
地区の行事
(運動会等)が
盛り上がって
いるまち

若い世代が住
民組織を運営
しているまち

中山間地域に
も学生が残っ
ている

- ・自分から参加したいと思うようになるきっかけがあるので、皆が参加し、自分の視野も広がり、世間話をすることがコミュニティづくりにつながる。
- ・地区の中に多様な世代が集まる場所があると、「参加」につながる。
- ・学生が残りたくなるような、中山間地になるとといい。
- ・若い世代が住民組織の運営に関わることで、多様な世代が参加したくなり、住民活動が盛り上がる。

多様な世代が
地域活動に参加



駅前や中心市街地に関する未来

- 眺めがよいまち
- 空がきれいなまち
- 歩いてまわるまち
- 24時間人が集まれる施設があるまち
- 空き家が学生等に有効活用されている
- 低層住宅が増えたコンパクトシティになっている
- 水辺で遊べる環境があるまち
- 善光寺を中心とした美しい景観が人気なまち
- インバウンド観光客が楽しめるまち
- 緑豊かで住環境の質が高いまち
- 駐車場が減り、緑化されたまち
- 中心市街地が森となっているまち

中山間地に関する未来

- 里山がにぎわい、クマと共生できるまち
- 空き家を農村留学等で活用

インフラに関する未来

- エネルギーが都市内で運管できるまち
- 太陽光発電をすべての屋根に設置されている
- 公共の場でもWi-Fi環境が整備されている

その他に関する未来

- 高齢者が住みやすく、子育てがしやすいまち
- まちを代表するイベントが誕生
- 善光寺以外にも観光名所が誕生
- ひとが集まることで価値の生まれる建物がある
- 働きたい業種を選べるまち
- 不便もたのしめるまち
- みんなでボランティアする日がある

公共交通に関する未来

- 電車の本数が増えている
- バスが利用しやすく、わかりやすくなっている
- 観光客も地元住民も利用しやすい駅となっている
- 中高生や高齢者が利用しやすい公共交通が整備されている
- シェアサイクルが充実している
- 車がなくてもくらせるまち
- 好きな時に好きな場所へ移動できるまち

● 都市整備分野で特に重要視された未来

不便もたのしめるまち

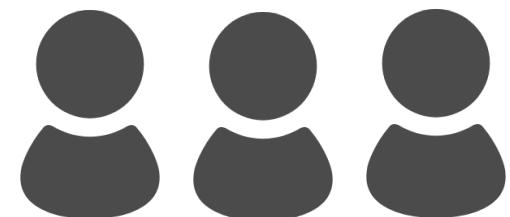
車がなくてもくらせるまち

好きな時に好きな場所へ移動できるまち

駐車場が減り、緑化されたまち

- ・電車やバスに限らず、新しい乗り物ができるといい。
- ・バスの待ち時間など、不便と感じる時間も楽しめることがあるといい。
- ・マイカーがなくても十分生活できる環境がいい。
- ・公共交通が充実した中心地の駐車場は様々な用途に使える。
- ・車が減れば、環境も良くなるし、コミュニティも豊かになる。

車に頼らず
移動ができる環境



善光寺を中心とした美しい景観が人気なまち

中心市街地が森となってい るまち

24時間人が集まれる施設がある

ひとが集まることで価値の生まれる建物がある

みんなでボランティアする日がある

- ・まちの維持のための住民活動（ボランティア等）は様々な問題解決につながる。
- ・人が集まる場所ができることで、新たなコミュニティが生まれる。

中心市街地に豊かな自然と人の賑わいが共存

